

新井紀一 あきよし 小説家。明治二十二年二月、千二百馬瀬生れ、昭和四十二年二月十二日没（八〇—一九六六）。筆名別院一郎、別院生、新井まひら、新井鑑吉、新井鑑吾、新井鑑音等。職上、雑誌編輯者、新聞記者など。傍ら雑誌『早稲田文學』、『二田文學』、『中央公論』等の小作品發表。昭和十一年個人誌『文藝個展』創刊。

著書『一人の文學青年』（大正十一年十一月十八日新潮社）『新進作家叢書』、『燃ゆる反抗』（大正十一年十一月十五日自然社）『新人叢書』、『落葉の如く』（大正十二年九月五日聚芳閣）、『雨の八號室』（大正十二年十月一日紅毛堂書店）、『續作家最近傑作選集』（合著・山崎今朝彌編、大正十五年十一月二十日解放社）『解放叢書』、『

新編文學全集・第五卷—日本V（宮地嘉六集・加藤一夫集）（藤井真澄集・新井紀一集）』（昭和

四年十一月五日平凡社）、『隨筆『彩管餘録』（編、昭和十二年十月

十五日教材社）、『陳登元著『敗走千里』（別院一郎名、譯、昭和十二年

二月二十日教材社。再刊、十五年八月十五日潮文閣）、『督戰隊』

（同、昭和十二年七月）千日教材社）、『蔣介石』（同、昭和十二年

十一月二十五日教材社）、『督戰隊』（同、陳登元洪材、昭和十五年

六月十五日、再刊、十六年十一月十日潮文閣）、『楊子江の魚』（同、

昭和十六年五月五日大都會書房）、『秀美の慰問袋』（昭和十八年二月

二十八日大阪・忠文館書店）、『國近秘史 蕭條の』（別院一郎名、昭和十

八年五月）千日大阪・立誠社）、『村の燈臺』（同、昭和十八年七月

十五日大阪・立誠社）、『望し望し 關東部隊』（昭和

十八年十月）千日愛讀社）等。

